

東北太平洋沖地震等における本学建物の点検結果等について

1. 点検内容及び結果

地震発生以降、余震の状況を勘案しながら各建物の構造体、内外装材などの目視点検及び専門家を交えての調査を実施しました。現時点においては建物の被害が「危険」と判断される状況ではありません。

- ① 壁面等のひび割れ（クラック）が多数みられますが、建物の耐震性に重大な影響を及ぼすものは確認されていません。なお、揺れが大きかった教育人間科学部第3研究棟においては、(1) 転倒した書棚に対する復旧支援、(2) 建物内の数箇所に地震計を設置して揺れをモニタリングします。
- ② 建物間の接合部の金物（EXP. J金物）の破損が見受けられますが、これは地震時には破損も考慮して設置されているものです。
- ③ 電気、ガス、上下水、エレベーター等のライフライン設備には地震による損傷は確認されませんでした。

2. 建物等に関するこれまでの対応

- H23. 3. 11(金) 地震発生後、速やかに附属学校、附属施設を含む建物の被害状況及び安全確認を各部局に依頼。あわせて施設部職員により3班集体で常盤台地区建物の被害状況の調査を実施。また、各建物エレベーターの安全点検を専門業者に依頼。（エレベーターの点検は翌12日土曜日に実施）
- 同 3. 11(金) 担当理事の指示により各実験室における薬品、ボンベ、水道、ガス、電気、実験装置などの安全確認・点検を各部局に依頼。
- 同 3. 11(金) 大学内で行われたシンポジウムに学外から参加して、当日帰宅困難となった方に職員宿泊所が使用できるように配慮。
- 同 3. 14(月) 計画停電の情報収集及び関連部局等への情報提供。
- 同 3. 14(月) 図書館について建物の被害状況を確認し、室内の片付け作業における安全確保を助言。また、建物の接続部分（EXP. J）や壁クラック等の被害状況についての調査を実施。
- 同 3. 14(月) 教職員に対して学内の宿泊可能施設に関する情報を提供。
- 同 3. 14(月) 計画停電に伴い、学内の各部局に節電への協力を依頼。
- 同 3. 15(火) 計画停電の情報収集及び関連部局等への情報提供。
- 同 3. 15以降 引き続き被害状況調査を継続中。

3. 今後の対応

- ① 余震が続いているため、建物を使用する際には安全確保に十分注意して下さい。
- ② 廊下や不使用部分の消灯、エレベーターの使用制限（なるべく階段を使用）、暖房の使用抑制及び適切な設定温度（20℃以下の厳守）、その他可能な限り各自が工夫して節電にご協力をお願いします。
- ③ 工事資材が入手困難な状況となっているため、復旧工事が遅れることも予想されます。